



「あきらめない心」

2ヶ月後に成人式を控えたごくごく普通のお嬢さん、伊藤眞波さん。ICUのベッドで気がつくとき右腕はこなごな。歯もなく傷だらけの顔は薬の副作用でパンパンに腫れ、痛くて眠れない毎日。この現実から逃げ出したくてベッドであれば「お母さん、助けて」と叫び続けた。こなごなにくだけた腕は感染し、いよいよ別れを告げるしか道はなく、力をふりしぼり自分の口でやっと言えた。

「先生、私の右腕を切ってください」

交通事故の1分前に戻りたい・・・。
当時、看護学校の2年生、学校を辞めてこれから一生実家で親と一緒に暮らせばいいと父母は言った。しばらくして学校の先生に「あなたはもうしたいですか。」と聞かれ、「もう逃げたくない、私は看護師になりたいです。」と答えた。先生は「それであれば看護師専用の義手を準備してください」と言われ、学校を続けられるように国に働きかけ全力でサポートしてくれて、前例のない片腕の看護師となった。

しかし思うように生きられず、その時上司からかけられた言葉は「被害者ツラしない、助けて欲しいと言え、できないことはできないと言え」だった。何かにぶつかっても、自分で起き上がる強い人間になりたいと決意し、水泳を始め、北京とロンドンオリンピックの競泳日本代表となった。

2015年結婚、3人のお子様に恵まれた。しかし、重さ3kg以上もの片腕がないとまっすぐ歩けない、首の座つてない赤ちゃんを抱っこできない、オムツが変えられない、お乳を飲ませることができない、お料理ができない、出かけられない・・・、しかし、少しずつ少しずつ足を使ったり、口を使ったり、工夫をしながらできるようになった。

静岡市で育った伊藤さんだが、関西の病院で働くことができて、笑顔になれたと感謝して、関西のこの町で家族と一緒に一生懸命生きていくことにした。優しいご主人と3人の娘様と幸せな暮らしをされている。

さらに、それだけではありません。伊藤さんはヴァイオリニストです。ヴァイオリニスト専用の世界にひとつの義手をつけて、肩甲骨の動きで弓をあやつり、見事に3曲披露された。幸せになりたいから、家族の喜ぶ顔が見たいから、一心不乱に伊藤さんの日常生活はつづきます。

ハロウィンパーティー

ベトナム実習生手作りのカボチャお化けバッグには、お菓子がザクザク。年代的には馴染みの薄いイベントでしたが、キューートなコスチュームを身につけ、楽しく仮装を体験されました。



行事予定

11/9(日) 秋まつり ※非公開

11/10(月) 訪問美容 喫茶

11/21(金) 訪問美容 11/24(月) 喫茶

11/30(日) 誕生日会



大玉をキック！

長かった残暑も10月中旬には落ち着き、スポーツには絶好の季節。

みなさまで大きな輪になって、大玉サッカーで盛り上がりました。

「動いたら気持ちいいわ」「またしたいね」と、喜んでいただきました。



◎衣替えについて

秋冬物の衣類や毛布のご持参を お願い致します。

前日までにご連絡下さいましたら、秋冬物のお預かりと同時に春夏物をお渡しできるよう準備をいたします。

事前連絡のない場合は、春夏物の引き取りを後日にお願いすることもございますので、ご了承ください。

◎家族面会について

午前 10:00～11:00 の 30 分毎 30 分間

午後 14:00～16:30 の 30 分毎 30 分間

・マスク着用にて消毒と検温の上、玄関ホール内での面会となります。電話予約にて承ります。

※感染症の状況などで、中止となる場合があります。